

【講演抄録】

令和元年9月6日

認知症の方の社会参加・就労等について考えるフォーラム

テクノプラザ愛媛

発表演題 「オレンジカフェにおけるピアサポートについて～認知症当事者を雇用して～」

三豊市立西香川病院 認知症疾患医療センター 主任 臼杵寛紀

当院では「認知症当事者本人の声を聴き、当事者一人ひとりの心情・心理と、全人的な4つ（身体的・精神的・社会的・スピリチュアル）の痛みを理解し、本人とともに感じ考え前へ進もう」という目標を掲げている。認知症疾患医療センターでは、もの忘れ外来に通院される認知症当事者・家族への支援を日々行っている。当院では独自の“オレンジカフェ”をH27年から運営しており、もの忘れ外来に通院中で主治医から勧めのあった方とその家族に利用していただいている。H29年5月には認知症当事者である渡邊康平氏を当院の非常勤相談員として雇用し、オレンジカフェにて渡邊氏自身の経験を話すことや、利用される方の話を傾聴することによるピアサポートを開始した。当院を受診される方に対して主治医からは、認知症のイメージの悪さや誤解について説明を行い、疾病感をできる限り改善した後に、オレンジカフェを紹介・案内している。オレンジカフェでは認知症当事者が、渡邊氏の体験や思いを聴き、また自らも発言をしながら、互いに共感しつつ、自らの状況に折り合いをつけていく。孤独感・不安感を解消し、連帯感・安定感を持てるようになること、渡邊氏の元気な姿に希望をもらい前向きな生き方への転換の援助がピアサポートに期待できる。これからの過ごし方や考え方・捉え方について当事者同士が相談したり語り合ったりする中で考えることや学ぶことなど、オレンジカフェでは、「認知症とともにより良く生きていくため」の貴重な体験の場となるよう、今後も主治医・認知症疾患医療センターと連携を取りながら運営を行っていく。

今後当院にて、ピアサポートを行う新たな相談員の雇用や、院内の環境整備、病棟業務の補助など、認知症当事者のニーズと提供できる仕事の内容とがマッチできれば“雇用”の可能性を見出していきたいと考えている。

